

筑波カップ16

3月26日(土)

13:20 武蔵B vs 浦和B 多目的G 0対5

武蔵 vs 浦和 筑波大学第1G 1対0

筑波カップ初戦ということで、気合を入れて臨んだ一戦だった。丁寧にビルドアップしてくる武蔵に対し、前半はリトリートした守備を敷いた。相手SBの位置が高かったので、ショートパスだけでなく裏を狙ったロングボールも多用し、クロスから再三のチャンスを作った。特に右サイドを突破した坂田(2年)のパスから新田(2年)のシュートや、平野飛鳥(1年)のヘッドなど惜しい場面は何度もあったが決め切ることができず。そんな中、中盤での繋ぎのミスからショートカウンターをくらい、失点してしまう。そのまま前半は終了。後半はリードされたという状況もあり前からのプレッシングに切り替えてゴールを狙い、左SB斉藤(2年)の抜け出しからのシュートなど何度も決定機があったものの、結局決めきれず試合は終了した。試合を通して10本以上のシュートを打っていただけに、悔しい結果となった。課題である守備は失点のシーン以外崩されたということはほとんどなかった。ピンチは自分たちのミスからのものが多く、繋ぐのかシンプルに蹴るのかの判断の速さの重要性を改めて思いしらされた。また決定力不足も露呈したので明日の試合で取り返せるよう頑張りたい。記録: 山田

3月27日(日)

11:30 浦和 vs 桐陽 3-1 鹿島アントラーズつくばアカデミーセンター

序盤、サイドからの崩しで良い形を作るも決めきれず、逆に自陣PA内でのミスから先制点を奪われてしまう。その後もチャンスを作るが決められない。しかし、前半終了間際にCKのこぼれ球から最後は平野飛鳥(1)が押し込み、同点とする。追い付いたことで完全に流れを取り戻し、ボール保持の時間がさらに増えた。後半には、右サイドからのクロスを月田(1)が頭で合わせて逆転に成功する。その後も攻め続け、後半終了間際には平野飛鳥(1)がキーパーとの1対1を決めてリードを広げた。前日と同じように、主導権を握りながらも先制されるという状況だったが、今回は良い時間帯に追い付くことができたので、精神的に余裕を持ってプレーできた。とはいえ、序盤のチャンスを物にできていれば、もっと楽な試合となっていたはずなので、反省が必要である。サイドのドリブル突破や崩しなどの良いところは継続し、DFとGKの連携や、声が少ないなどの課題は修正していきたい。

記録: 田端

14:10 前橋 vs 浦和 鹿島アントラーズつくばアカデミーセンター

9:30 宇都宮B vs 浦和B セキショウチャレンジスタジアムC

13:40 前橋B vs 浦和B セキショウチャレンジスタジアムB

3月28日(月)

千葉 vs 浦和 1-2 筑波大学第1G

得点者:伊藤(2),江藤(2)※ ()内は学年

前半、なかなか自分たちのリズムでボールが持てない時間が多かったが、相手のDFラインの裏を狙うということを意識し、サイドからチャンスを作ることもできた。そのような形からの攻撃での新井(2)のシュートのこぼれ球を伊藤(2)が押し込んで先制。しかし、裏を狙うことばかり考えてしまい、ビルドアップができる場面でも攻め急いでしまう場面も多くみられた。

後半も自分たちのミスから攻撃されることもあり、前後半ともなかなか自分たちの時間を作り、ゲームを支配することができなかった。そして同点に追いつかれてしまう。それでも後半終了前、コーナーキックからのゴールエリアの混戦を江藤(2)が押し込んで勝ち越し。そのまま試合終了し、**2-1**で勝利を収めた。

この試合は、内容としては決していいものではなかった。しかし、流れの悪い試合でも勝つことができたのはよかった。つなげるときはつなぐ、裏が空いたら裏を狙う、というように長短織り交ぜた攻撃ができるようにボール奪取後の周りからのコーチングなどを、この後の試合で意識したい。

記録:坂田(2)

浦和 vs 真岡 1-1 筑波大学第1G

相手は筑波カップで全勝中、無失点の真岡高校。みんなよく集中していたと思う。前半**10**分頃、伊藤(2)の裏への飛び出しから、左足でキーパーの頭を越すループシュートで先制。昨日、前橋戦で先制したが、すぐに逆転されてしまったので、その失敗は繰り返さないよう、みんなよく集中していた。佐藤良(2)の裏へのボールからキーパーと一対一というシーンがみられたが決めきれずにいた。サイドからのクロスも多く見られた。前半は、守備が全体的によくできていて、危ないシーンがあまりなかった。

後半になっても、今までの疲れを感じさせないプレーでみんなよく走っていた。しかし、途中、相手のスローインからクロスを上げられ、胸で落とされ、走りこんできた相手にシュートを打たれ、ゴールを許してしまった。**1-1**。その後はどちらもチャンスはあったものの決められずに試合終了。

筑波カップのリーグが終わり、**6**チーム中**4**位という、悔いの残る結果となった。明日は、もう1つのリーグの**4**位チームとあたるので、今日の真岡戦のように、集中して臨みたい。

10:20 新潟西B vs 浦和B セキショウチャレンジスタジアムB

13:50 千葉B vs 浦和B

3月29日(日)

順位決定戦 (予選結果による) 筑波カップ順位決定戦
vs上田東

スコア △2-2

試合序盤に決定的なチャンスを三度作ったがゴールに至らず、その後不用意なパスミスが続き徐々に相手に流れが傾いてしまった。そして、前半の中盤に差し掛かった頃に立てて続けに失点をくらい、前半終了。後半は、前半に間延びしていたことなどを修正したことで、主導権を握る時間が増えた。結果、ドリブルからのシュート、コーナキックからと佐藤匠(3年)が得点を奪うことができたが、前半のシュートミスが響いて試合は結局このまま終了となった。

筑波遠征を通して、自分たちがやれる少しの部分と、やれない多くの部分が見つかった。繋ぎからの裏へのボールが以前よりも格段に増えたこと、ダイレクトでのパスを織り交ぜよいコンビネーションが何度かあることは今後もさらに伸ばし磨いていきたい。シュート決定力、ウイングの使い方、中盤の距離感、球際の強さ、セットプレーの守備、互いの声かけなどは、先輩たちや、県の強豪校にまだまだ到底及ばないレベルにあると思う。浦和カップではそのようなことを重点的に意識し、差し迫るS2リーグで勝てるよう